



2022年度 エコアクション21 環境経営レポート



 **小川建設工業（株）**
自動車部（MAZ魚津、APサービス）

期間：2022年1月～12月の1年間

発行日 2023年3月31日

作成者 中陳 晋也

環境経営方針

環境理念

小川建設工業（株）（マツダオートザム魚津）は、益々深刻化する地球環境や限りある資源の枯渇等への対応が全世界共通の最重要課題であるとの認識を持ち、自社の信条にある“地域社会の一員として社会に貢献しその発展と豊かな地域生活の充実に寄与する”と共に地域全体の未来を作っていかなければなりません。幸いにも山・川・海等のかけがえない地域に暮らし、そして目標を定め汚染の予防と環境マネジメントシステムの継続的改善を自動車整備、販売において全社、全従業員が一丸となって環境に配慮した活動を推進します。

- 1 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境影響のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。
 - （１）二酸化炭素の排出量削減に努めます。
 - （２）水使用量の削減に努めます。
 - （３）産業廃棄物の削減と産業廃棄物の分別による資源の有効利用に努めます。
 - （４）グリーン購入を推進します。
 - （５）エコ整備を推進します。
 - （６）化学物質の適正な管理に取り組みます
- 2 法的及びその他の要求事項を遵守します。
- 3 全従業員にこの環境方針を周知徹底するとともに、環境レポートを作成し、公表します。

2011年12月20日(制定)

2022年1月1日（一部改訂）

小川建設工業株式会社

（マツダオートザム魚津） （オートパークおがわサービス工場）

代表取締役社長

岡田富治



1.事業社名及び代表者

小川建設工業(株)(マツダオートザム魚津(オートパークおがわサービス工場))
代表取締役社長 岡田 富治

2.所在地

マツダオートザム魚津 オートパークおがわサービス工場
〒 937-0011 〒939-0733
富山県魚津市木下新237-4 富山県下新川郡朝日町月山64-2

3.事業内容

マツダブランドの新車販売
新車・中古自動車販売
自動車整備業(車検・点検・修理等)
損保保険の取り扱い



4.事業の規模

マツダオートザム魚津

オートパークおがわサービス工場

従業員数	10名
年間売上高	402000千円
年間販売台数	339台
年間整備入庫台数(車検)	632台

従業員数	9名
年間売上高	137000千円
年間車検入庫台数	533台

2021年1月～2021年12月の実績値です

5.環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者	部長	古市 一夫
EA21環境推進事務局	MAZ魚津	中陳 晋也
	APサービス	林 春満
連絡先	TEL : 0765-24-1166 FAX : 0765-22-7980 e-mail : mazuda@ogawa-gp.co.jp	
連絡先	TEL : 0765-83-3323 FAX : 0765-82-1668 e-mail : park-s@ogawa-gp.co.jp	

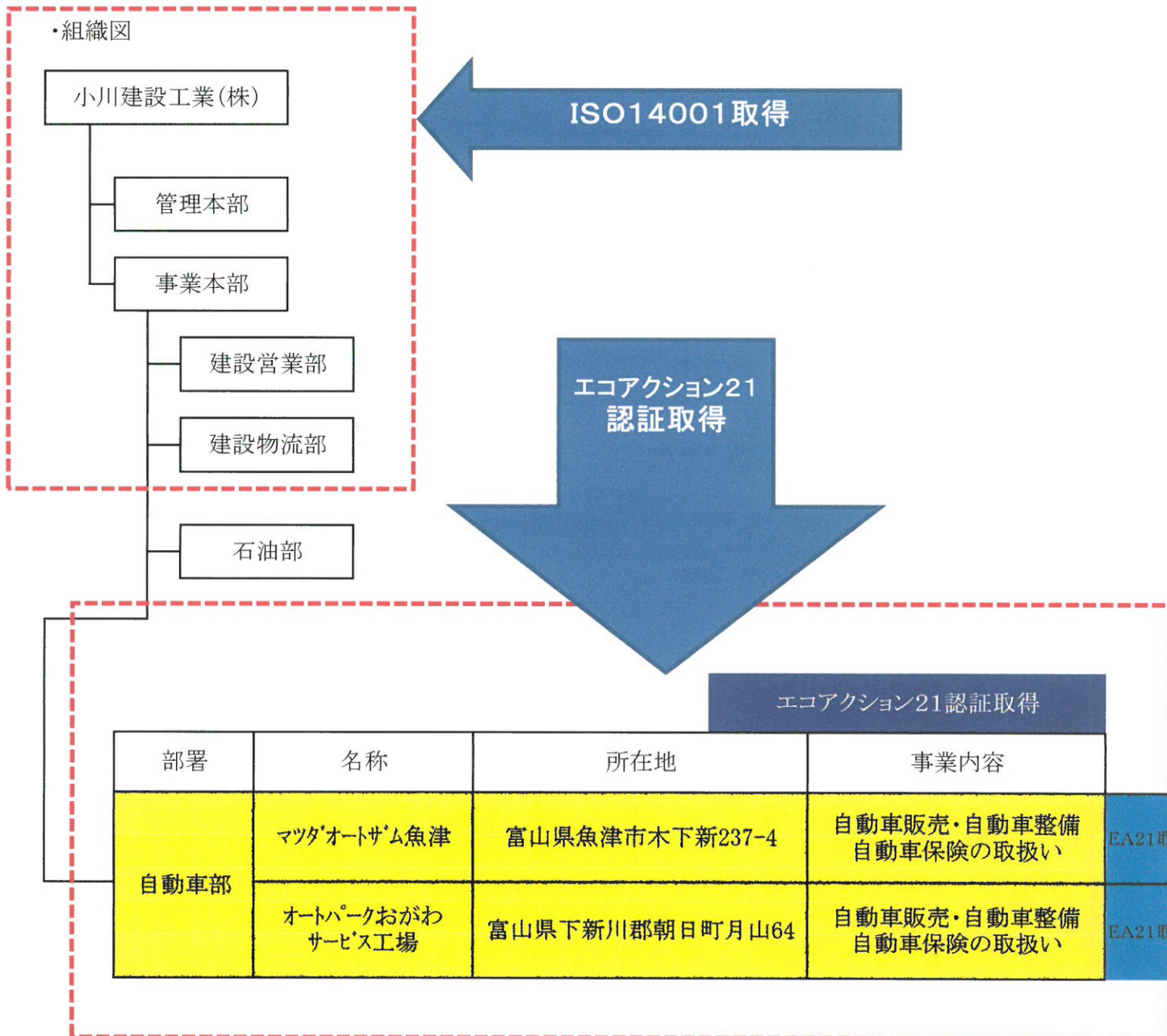


6. 認証・登録対象範囲

・2013年4月にマツダオートザム魚津で取得 エコアクション21 認証登録日2013年8月7日

・2015年6月更新検査時にAPサービス取得
2017年8月 更新審査実施 2019年8月6日(有効期限) 2021年8月更新

・組織図





当社の主要な環境経営計画の内容は以下の通りです。

■二酸化炭素排出量の削減

（担当責任者：滝川 山下）

①電力使用量の削減

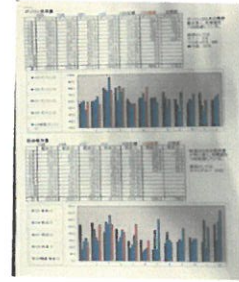
- ・ 不要な照明の消灯・節電の徹底
- ・ 冷暖房設備の温度を管理する
（事務所）冷房27℃、暖房24℃
（ショールーム）冷房27℃、暖房24℃
- ・ エアコンフィルターの定期清掃を実施する
- ・ パソコン待機電源のオフ設定
- ・ 照明器具の老朽に伴うLEDへの切り替え
- ・ 作業効率化（時間管理の徹底）

- ・ ウォームビズ、クールビズの基準（明確化）
- ・ エアコン点検作業の実施（簡易点検）



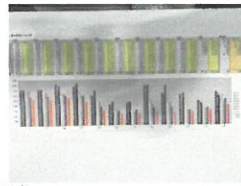
電気管理チェックシート

化石燃料チェックシート



②化石燃料使用量の削減

- ・ エコドライブの実施（アイドリング・ストップなど）
- ・ 社用車の運転管理記録簿の管理・徹底
- ・ 定期交換部品の提案活動
- ・ 運転停止時はエンジンを切る
- ・ 老朽化に伴う代車の入れ替え
- ・ LPG削減の為、給湯器の使用制限（4月から11月）



■廃棄物排出量の削減

（担当責任者：上田 谷崎）

①一般廃棄物排出量削減

- ・ 紙使用量の削減
- ・ 両面・縮小コピーの活用、コピー用紙の裏紙を再利用
- ・ 使用済みの封筒等の再利用
- ・ 分類別に収集及びリサイクルの徹底（明確な表示）
- ・ シュレッダー（個人情報管理）ペーパーレス
- ・ ペットボトル、キャップ、容器包装（資源ステーション）



②産業廃棄物排出量削減

- ・ マニフェストの徹底管理・リビルト品活用
- ・ 廃プラスチック・金属くずの分別処理と管理の徹底
- ・ 廃油、バッテリー、廃LLC、タイヤ 適正管理
- ・ 分別改善（追及）、資源活用
- ・ 取引業者へのEA21取組紹介
- ・ 不要な廃棄物の持ち込み抑制



■排水量削減（水使用量の削減）

（担当責任者：松田 中陳）

①節水活動の推進

- ・ 洗車ホースの節水ノズル取付と節水の意識付け
- ・ 節水器具の取付、定期的な点検
- ・ 洗車機・洗濯機の使用制限の徹底
- ・ 水道メーターチェック表の作成
- ・ 水漏れチェックの定期化
- ・ 側溝、排水確認
- ・ 洗車効率向上の為の検証を行う
- ・ 定期的清掃と呼びかけ（朝礼時、終了時）





当社の主要な環境経営計画の内容は以下の通りです。

■その他の活動

（担当責任者：中陳）

- ①エコ整備（ECOオイル・エコタイヤ交換）促進 燃費向上の為の提案活動
 - ・年2回のキャンペーン実施時愛車診断の実施（空気圧他、定期点検）
- ②環境に配慮した自動車（エコカー）（クリーンディーゼル）の販売
- ③グリーン購入品目の拡大
 - ・事務消耗品、備品等のエコ商品を積極的に購入する。
- ④展示場など照明機器のLED電球への切り替: **H30, 4工場=全LED** ショールームも済
- ⑤定期的、会社敷地内外の清掃活動 **4月実施済**
- ⑥PRTR法（有害化学物質）の使用痕跡なし
- ⑦会社敷地内外の清掃（定期的実施）
- ⑧お客様に省エネ活動中などの告知

重点行動

EA21（無事故、無災害をめざす）－環境目標として設定 仕事における時間や、労力、費用の抑制
 発生の都度報告、改善方法の検証を行う

事故訓練



避難訓練（毎年10月実施）



分煙 受動喫煙防止



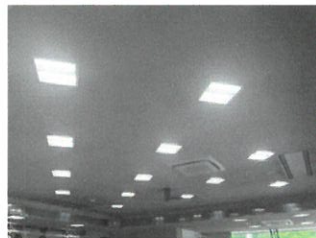
グリーンカーテン（毎年恒例の5月から）



エコアクションミーティングノ実施

クリーンディーゼル販売、HEVの販売

LEDへの切り替え完了（サービス工場、ショールーム）
 工場およびショールーム



常備部品、消耗品提案



地域清掃活動への参加





当社の主要な環境経営計画の内容は以下の通りです。

■二酸化炭素排出量の削減

（担当責任者：舟川 田中）

①電力使用量の削減

- ・ 不要な照明の消灯・節電の徹底（チェックシートを作成、実施）
- ・ 冷暖房設備の温度を管理する
（事務所）冷房28℃、暖房22℃ 休憩室含む
（商談室）冷房28℃、暖房25℃
- ・ エアコンフィルターの月一回の清掃を実施す（エアコン3機使用）
- ・ パソコン待機電源のオフ設定
- ・ 照明設備の確認（老朽化に伴う入れ替え）



②化石燃料使用量の削減

- ・ エコドライブの実施・回送時エコドライブの実施、啓蒙活動）
- ・ 社用車（代車）の運転管理記録簿の管理・徹底
- ・ 燃費向上の製品に交換する
- ・ 運転停止時はエンジンを切る（アイドリングSTOPも心がける）
- ・ 老朽化に伴う代車の入れ替え



■廃棄物排出量の削減

（担当責任者：三浦 松平 杉田 平坂）

①一般廃棄物排出量削減

- ・ 紙使用量の削減
- ・ 両面・縮小コピーの活用、コピー用紙の裏紙を再利用
- ・ 使用済みの封筒等の再利用
- ・ 分類別に収集及びリサイクルの徹底
- ・ 不要なごみを持ち込まない（工場内置き場管理と清掃）

②産業廃棄物排出量削減

- ・ マニフェストの徹底管理
- ・ 廃プラスチック・金属くず・ガラス等の分別処理と管理の徹底
- ・ リサイクル、廃棄物、タイヤ、バッテリー、廃油等の管理
- ・ 廃棄物の分類を詳細にする リサイクル品の活用



■排水量削減（水使用量の削減）

（担当責任者：伊藤 高橋 山本）

①節水活動の推進

- ・ 洗車ホースの節水ノズル取付と節水の意識付け
- ・ 節水器具の取付
- ・ 洗濯機、スチームの使用制限の徹底
- ・ 水道メーターチェック表の作成
- ・ スチーム洗車時、節水を意識する（時間チェック）
- ・ 漏れの定期的チェック体制





当社の主要な環境経営計画の内容は以下の通りです。

■その他の活動

(担当責任者：林)

- ①エコ整備(ECOオイル・エコタイヤ交換)台数把握 (比率にて把握)
 - ・整備入庫時にECOオイル交換及びエコタイヤの販売促進
- ②環境に配慮した自動車(エコカー)の販売
- ③グリーン購入品目の拡大
 - ・事務消耗品、備品等のエコ商品を積極的に購入する。
- ④工場内など照明機器のLED電球への切り替え
- ⑤会社敷地内外の清掃活動(社内美化)・地域清掃活動へ参加
- ⑥化学物質の適正な管理
- ⑦会社敷地内外の清掃
- ⑧お客様に省エネ活動中などの告知

EA21(無事故、無災害をめざす)ー環境目標として設定 仕事における時間や、労力、費用の抑制



グリーンカーテンの実施 (例年実施中)



避難訓練、消火訓練(定例10月に実施)



定期清掃活動(舟川べり桜祭り終了後)

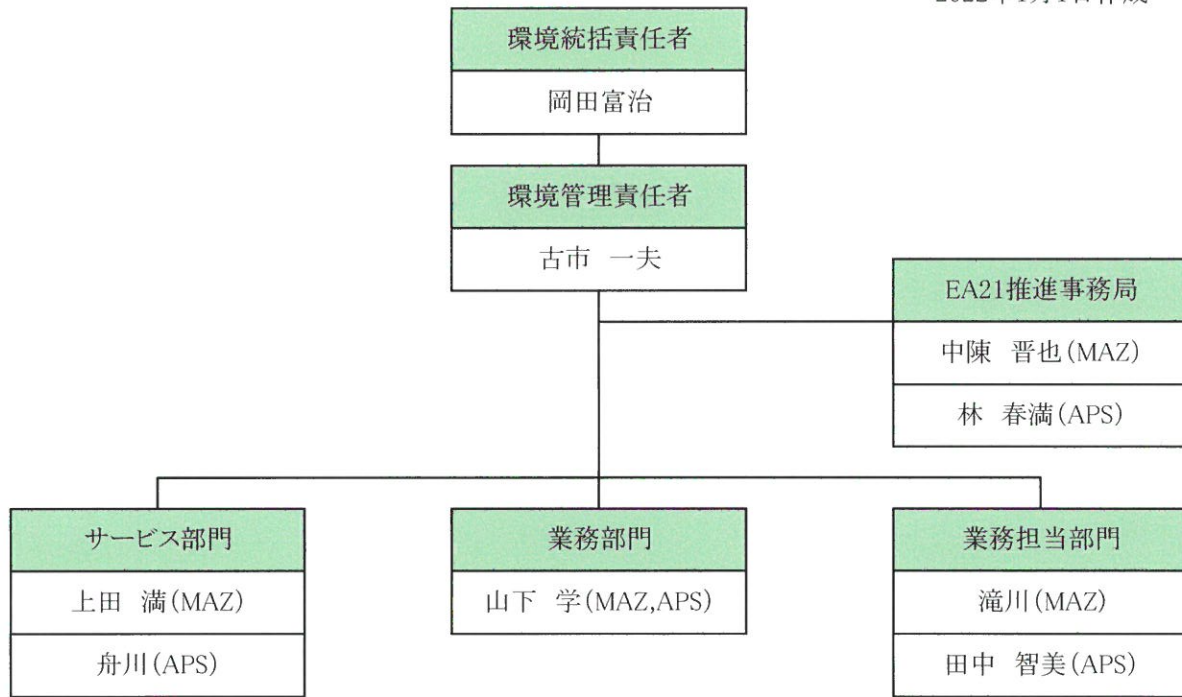


毎年舟川べりの清掃(小川建設、ザム参加)

組織の体制



2022年1月1日作成



担当者	役割
環境統括責任者 <社長>	環境マネジメントシステム(以下EMS)に関する統括責任者 - EMSの実施及び運用に必要な人・設備・費用・時間を用意 - 環境管理責任者の任命 - 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 - 環境目標の設定を承認 - 代表者による全体の評価と見直しを実施 - 環境活動レポートの承認
環境管理責任者 <役員・業務/サービス部門長>	実務上の責任者として、全社の環境取り組みを推進する (※代表者は、環境活動の実務に関して全部門に対する指揮命令権限を委譲) - EMSの構築、実施、管理 - 環境活動計画書、環境関連法令取りまとめリスト等の承認 - 環境活動の取組結果を代表者へ報告 - 環境活動レポートの確認
EA21推進事務局	環境管理責任者をサポートし、EA21推進事務局として全社の環境取組を推進する - 環境取り組みの指導・支援 - 環境データの集計・取りまとめ
各部門責任者 <店長> <サービス工場長>	全社の環境取り組みを推進する - 環境経営システムの実施 - 環境方針の理解と環境取り組みの重要性を自覚 - 決められたことを守り自主的、積極的に環境活動へ参加 - 店舗の環境取り組み全体の責任者として、店舗環境取り組みの推進・管理 - MECA21を中心にサービス領域の環境取り組みに責任を持つとともに店舗全体の環境取り組みにおいて店長をサポートする
全従業員	- 環境方針を理解し環境への取組の重要性を自覚 - EA21について決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

組織の体制 (APサービス工場)



エコアクション21 エリア担当

担当場所	担当者	役割
商談室	林 三浦	電力の削減管理 節水削減 可燃物分別処理 エコ商品関係のツール・情報提供
サービス工場	舟川 花房 高橋	産業廃物ダストBOX管理 廃タイヤ・廃バッテリー管理 オイルフィルター処理管理 リサイクル部品購入担当 油庫・廃油管理 ECOオイル購入担当 可燃物分別処理 廃プラ・不燃物・金属類分別処理 水量節水・電気の削減管理 側溝・油水分離槽清掃 ダンボール処理管理
事務所	三浦	電力の削減管理 コピー用紙(再利用含む)の管理 グリーン商品購入担当 節水削減 可燃物・不燃物分別処理
廃棄物置場	伊藤 山本	ダンボール分別処理 新聞、雑誌分別処理 ペットボトル分別処理 廃プラスチック分別処理 スチール・アルミ缶分別処理 可燃物・不燃物分別処理
駐車場	山本	事故車・廃車管理
全エリア	古市	役割分担総責任者

組織の体制(マツダオートザム魚津)



エコアクション21 エリア担当 (マツダオートザム魚津)

担当場所	担当者	役割
ショールーム	滝川 中陳 大林、 中陳、山下、滝川	電力の削減管理 節水削減 可燃物・不燃物分別処理 エコ商品関係のツール・情報提供 グリーン商品購入担当 ショールーム清掃、管理
サービス工場	中陳 山下 松田、杉田 山田 伊藤	部品庫の管理 リサイクル部品購入担当 オイル管理、危険物管理担当 代車管理、化石燃料管理 可燃物分別処理 廃プラ・不燃物・金属類分別処理 水量節水・電気の削減管理 側溝・油水分離槽清掃 ダンボール処理管理
事務所	稲葉、田中 大林	電力の削減管理 コピー用紙(再利用含む)の管理 グリーン商品購入担当 節水削減 可燃物・不燃物分別処理
廃棄物置場	松田 酒井	オイル、オイルフィルター処理管理 廃バッテリー管理 ペットボトル分別処理 廃プラスチック分別処理 スチール・アルミ缶分別処理 廃油、廃LLC処理管理 産業廃物ダストBOX管理 廃タイヤ
駐車場(二階含む)	滝川 山下 中陳	新・中古車管理 事故車・廃車管理
全エリア	古市	役割分担総責任者



＜小川建設工業(株)「マツダオートザム魚津」「オートパークおがわサービス工場」の環境目標と取り組み方針＞
事業活動で生じる環境負荷の中で、特に影響の大きい「電気使用量」、「ガソリン・軽油」、「廃棄物排出量」、「水使用量」の削減と、「グリーン購入」、「環境に配慮した製品のサービス」、(化学物質の適正管理)に取り組む。

1. 環境負荷の現状

項目		単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2021年度
二酸化炭素総排出量		kg-co2	87,744	85,698	72,731	75,456	72,029
電力使用量		kWh	73,313	68,928	67,187	68,361	70,923
化石燃料	ガソリン使用量	L	11,684	12,175	11,702	11,770	10,137
	軽油使用量	L	3,327	3,195	2,218	2,562	2,706
	LPガス使用量	m ³	46.7	42.4	44.1	42.8	40, 3
	灯油使用量	L	2,258.0	2,220.0	2,084.0	2,312.0	1,994
廃棄物排出量		t	12.82	12.10	12.97	11.75	12, 41
水使用量		m ³	996	1,625	836	1,005	1,079
グリーン購入		数	28	28	28	28	28

(注1) 当社の事業年度は、1月～12月迄の1年間です。

(注2) 当社の電気排出係数 0.51 で計算しています。

2. 環境目標(通期)

当社は、毎年、以下の各項目について削減目標に掲げ、環境改善活動を推進します。

項目			2021年度 実績 (基準年度)	目標				
				2022年度 期間 1月～12月		2023年度	2024年度	
								単位
				年度目標	実績			
二酸化炭素排出量			kg-co2	75,456	75,456	72,029	75,456	75,456
電力使用量			kWh	69,361	69,361	70,923	69,361	69,361
化石燃料	ガソリン使用量	L	11,770	11,770	10,137	11,770	11,770	
	軽油使用量	L	2,562	2,562	2,706	2,562	2,562	
廃棄物排出量			t	11.75	11.75	12.41	11.75	11.75
水使用量			m³	1005.0	1,005.0	1,079.0	1,005.0	1,005.0
(ECO関連)			台	51	51	54	67	70
グリーン購入			suu	28	28	28	28	28
化学物質			状況	取扱量が少量である		適合	適正な管理を実施	

■ 二酸化炭素排出量および電気使用量についての目標・・・＜各年の環境目標を作成＞実績により設定し目標とする
他設備の改善および要因が特定できているものは随時確認し設定 基本は現状維持を目標とする

■ ECO関連の件数把握についてはマツダ車の販売台数を把握 無事故(無駄ゼロの取組を把握)も行動指針として設定

環境経営の取組結果の評価



1. 環境経営目標の達成状況

(2022年1月～12月迄)の環境経営目標と実績は以下の通りです。

項目	単位	期間(2022年1月～12月)				評価	2021年実績
		目標	実績	削減(増加)	目標達成率		
二酸化炭素総排出量	kg-co2	75,456	72,029	△3,427	104.8%	G	75,456
電力使用量	kWh	69,361	70,923	1,562	97.8%	G	69,361
ガソリン使用量	L	11,770	10,137	△1,633	116.1%	G	11,770
軽油使用量	L	2,562	2,706	144	94.7%	G	2,562
灯油使用量	L	1,994	1,994	0	100.0%	G	2,312
LPG使用量	m ³	40	40.3	0	100.0%	G	42.8
廃棄物排出量	t	11.75	12.41	0.66	94.7%	G	11.75
水使用量	m ³	1,005	1,079	74	93.1%	G	1,005
エコ整備(ECO関連))	台	51	54	3	105.9%	G	51
グリーン購入	数	28	28	0	100.0%	G	28
化学物質の適正な管理							

(注)トライアル期間の目標値は、2022年度実績と評価後に設定し1年間の目標として設定しています。

(注)評価欄の「G」=達成率100%以上及び上限達成率10%以下 [R]=G評価以外(未達成)

2. 環境活動の取組結果の評価

■二酸化炭素総排出量の削減

評価(及び評価理由)		次年度の取組
G	電力量の削減 2022年度は電力で約70923KWH.目標値に対しては97.8%となりました。今年度はマツダ店舗(ショールーム)の業務にかかる削減ができませんでした。削減にたいしては意識されており増加は業務においての変化と見ています。ただ工場内の業務においてはもう少し節電に対しての意識を今一度全体に浸透させていき、無駄な効率の改善をはかりたい。電気代金の値上がりもあり、さらに電力の削減は重要性を高くしていきたいです。APIにおいては意識が浸透し効果につながっています。他にもさまざまな工夫と改善点はあるとおもうので、引き続き継続的活動を続けていきたいです	2023年度の取組としては活動として引き続きEA21の取組を継続し工夫と改善をしていきたいです。 ショールーム及び工場の稼働時間に注視していく 冬季期間の電力過多＝暖房や作業環境における電力負荷が大きく考えられており環境に配慮した器具の導入や冬季の対策を強化していきたい。 営業時間内の業務実施は引き続き行い、すべてのスタッフが作業を分担、兼業し時間内の効率化を目指す。
	化石燃料の削減 2022年度は種別としてはガソリンについてが削減につながりました。活動では代車の適正な活用と来店活動を強化して成果ができました。灯油とLPGは例年同様でありました。軽油についてはクリーンDの販売燃料いかかる数値と積載車の活用が多かったと思われます。エコ活動については各自認識を高くも持つことができていますが、まだまだ様々な活動により削減できる種別かとも思っていますので引き続きエコドライブの促進と販売においてエコ商品に位置付けているマツダ車の販売特にクリーンDとHV車の拡販につなげていきたいです	昨年同様に環境を考えたエコカー普及活動と、エコドライブを推進し継続的な実績の推移を朝礼等の場で伝えよう活動を頻繁に実施していく事は引き続き行っていきます。環境取組でもある無駄な行動と無事故無災害である事と業務の効率化により燃料を抑制し環境にむすびついた活動は常に意識し行動したい。なお自動車販売においてのハイブリッド、電気、クリーンDの普及は売上に直結する事であり提案活動(営業強化)を高めていきたい。もちろん環境配慮のための工夫は皆でミーティングを実施して日々の改善を図っていききたいです。

■廃棄物排出量の削減

評価(及び評価理由)		次年度の取組
G	全体的数値目標にたいしては0.66Tの増加となりました。削減する一般廃棄物と産業廃棄物においては適正に管理できておりますし、さらに改善し分別を徹底したいと思えます。工場内において発生する廃棄物においては様々なありサイクルの意識をもっと高く持つことが必要と考えます。適正な処理と分別の活動と、整理整頓は常にみんなで声を掛け合いEA21の意識も徐々に良くなっていると感じます。	産業廃棄物等は適正に処理する事を徹底して、リサイクル促進にもつとめていきたいです。事務所内一般事務は削減活動を推進しペーパーレスを加速していきたいです。他には環境推進においてのエコアクション21の取得店舗としてPRを実施し、廃棄物削減に取り組んでいきたいです

■排水量削減(水使用量の削減)

評価(及び評価理由)		次年度の取組
G	2022年度は前年に対して使用量74平方しが増えた結果となりました。今年度も数量にかんしては整備関連の増加と販売における洗車の増加が考えられます。EA21への取組において節水の意識が改善できている事は良い点であり両店舗ともに評価できます。継続して使用(年間)把握できていますので今後も活動を通してこの限られている貴重な資源を有効活用できるようにしていきたいです。	引き続きチェックシート、ストップノズルの確認、漏れの確認(特に老朽化しているトイレ水洗関係、洗車場の管理、油水分離槽やスチーム洗車ルール)は徹底して行っていききたいと思います。AP、ザムとも水回りの劣化も一年を通して見られてきましたので、各場所のチェックをしっかりと実施したい

■ECO関連商品の販売及び無駄削減活動

評価(及び評価理由)		次年度の取組
G	2022年も引き続き環境につながる活動として無駄、災害、ミスをなくすことにより業務内に発生した事故、ロス、無駄をみんなで共有しあう活動を引き続き行いました。活動としては月に一度の課内会議においていろんなテーマを上げてスタッフが話し合うことでコミュニケーションもよくなりました。なおマツダ車の販売についてはまだまだ納期問題や生産のおくれがあることコロナ化において厳しい状況ではありましたが、微量ではあるが増加いたしました。積極的に提案し売上の貢献につながる活動としていきたいです	2023年も自ら生産、販売、提供する製品及びサービスに関する環境目標として(快適な職場を目指し無事故・無災害を目標にして時間行動、すべてにおいてあらゆる想定の中で改善対策を講じるための事案を提出し皆で話し合うことを目的とし活動していきます。数値目標は再度販売数量を掲げて頑張っていきたいです

■グリーン購入

評価(及び評価理由)		次年度の取組
G	目標の28品目に対して実績は28品目となった。内容は様々なエコ商品(グリーン)を購入時に選択する取組となっているが、まだまだ取組不足となっていて結果をみると昨年並みという結果であった。もっと工夫し環境対応商品を活用しさらには再利用を含め検証していきたいと思えます	さらに品目を増加したいと思うが、一つ一つ判断しグリーン購入を推進していきたいです

■化学物質の適正な管理

評価(及び評価理由)		次年度の取組
G	APサービスにおいて板金塗装工場を稼働しておりますが適正に管理されておりました	引き続き管理の徹底を行い行っていきます



1. おもな環境関連法規と遵守状況

環境関連法令	法令要求事項	評価
廃棄物処理法	廃棄物の適正処理	遵守
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正処理	遵守
循環型社内形成推進基本法	循環資源の適正な循環的利用	遵守
水質汚濁防止法	油水分離槽の管理	遵守
消防法	避難訓練、防火設備の点検	遵守

環境関連法規については、マツダ(株)提供の「マツダ環境保護プログラム(MECA21)」により、環境関連法規の遵守状況を確認しています(年1回実施)

2. 違反・訴訟の有無

当社は、環境関連法規の違反や訴訟は発生しておりません。
また、環境当局からの違反等の指摘は、過去3年間1件もありません。

代表者による全体の評価及び見直し



対象事業所	マツダオートザム魚津、オートパーク小川
活動期間	2022年1月～2022年12月

作成者		EA21推進事務局	中陳 晋也
見直し 関連情報	項目	確認	評価・コメント
	1 エコアクション21文書	作成	マニュアル内容を文書、記録一覧として作成 フォームにおいて取扱いが難点な点は引き続き改善す べてのスタッフ協力を
	2 環境経営目標及び目標達成状況	活動報告書	環境目標を定めて実施され、二酸化炭素の削減と限りあ る資源の有効活用を今後もスタッフの意識を向上させて EA21取組を強化していきたい
	3 環境経営計画及び取組実施状況	活動報告書	活動計画の実施にあたりミーティングを開き企画と検証を 行い実施された。
	4 環境関連法令一覧表及び遵守状況	確認	一覧表を作成、処理業者との契約状況も担当 者によって管理されており、確認された。法規 と順守状況を年初に確認済
	5 外部コミュニケーション・対応記録	確認	外部よりの苦情等はない事と対話を通じて全 体の確認。対応においての手順書を再度確認 しました
	6 問題点の是正・予防措置の実施状況	環境目標活動	項目事において是正が必要ではなかったが定 期的見直しが必要である。適正に記録と改善 策の話し合いが出来ました。
	7 取引先・業界・関係行政機関その他の 外部動向	取引業者	当社がエコアクションに取り組んでいる事を関 連会社に周知した、マツダ(株)においても推奨 されております
	8 その他		地域貢献や環境に関連した取組を今後も多く 実施していきたい

評価者	代表取締役 岡田 富治	実施日	2023. 1. 8
-----	-------------	-----	------------

全体評価・コメント(環境経営システムへの有効性・環境への取組の適切性等)

エコアクション21の取組が自動車部において必要不可欠な活動として位置づけられていて目標に対しての実績値も全体で削減について例年取り組む中で平均されてきました。業務を実施するうえであくまでもサービス業としてお客様目線に立って活動を進めていくべきと考えます。2022年度も自動車販売、整備業とし環境推進活動は必須でありPDCAの繰り返しによる活動を各店舗評価し取組み計画的にすすめていき、EA21の取組みを全従業員が一丸となって推進し、活動を継続していきたいです

見直し の結果	見直し項目	変更の必要性	変更「有」の場合の指示事項
	1 環境経営方針	☐ 有 ☒ 無	
	2 環境経営目標	☐ 有 ☒ 無	
	3 環境経営計画・取組項目	☐ 有 ☒ 無	
	4 実施体制	☐ 有 ☒ 無	
	5 その他のシステム要素	☐ 有 ☒ 無	
	6 その他(外部への対応)	☐ 有 ☒ 無	